すべての妊娠が望まれ、
すべての出産が安全に行われ
すべての若者の可能性が満たされるために

UNFPA
国連人口基金駐日事務所
United Nations Population Fund

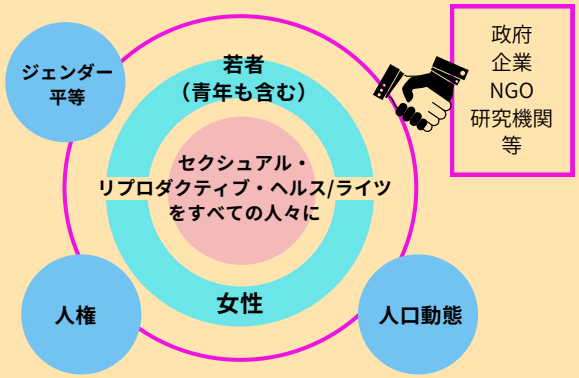
UNFPA Strategic Plan, 2022-2025

UNFPAとは

国連人口基金（United Nations Population Fund：UNFPA）は1994年に設立された、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツを全ての人に保障するために取り組む国連の機関です。

私たちの活動理念は、「すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全に行われ、すべての若者の可能性が満たされる世界を実現すること」です。
本部は米国・ニューヨークにあり、現在世界約150か国以上*で活動しています。

(*UNFPA Strategic Plan, 2022-2025)



UNFPAの中心課題は、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツ（SRHR）をすべての人に保障することです。また、人権とジェンダーの平等、人口動態のすべてに関わる共通課題でもあります。「女性」と「若者」という2つのグループは、SRHRを享受しにくい立場に置かれています。UNFPAは、この課題の解決のために政府、企業、NGO、研究機関等と協力して活動しています。

（UNFPA駐日事務所ウェブサイト）

2021年の活動実績 （UNFPA Annual Report 2021）

1,270万件
回避された意図しない妊娠

39,000件
回避された妊産婦死亡

230万人
ジェンダーに基づく暴力に対する保護サービスを受けた女性の数

150万人
人道危機下において安全な出産の支援を受けた女性の数

190万人
女性器切除（FGM）のケアを受けた女性の数

UNFPAは、すべての人々がセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツを享受できることを2030年までの長期的目標としています。その実現のために、「3つのZEROミッション」達成のための6つの方法を掲げて活動しています。

UNFPAの「3つのZEROミッション」

01
妊娠・出産による妊産婦の死亡

医療制度の強化や医療従事者・助産師の研修・教育を通して、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツを推進し、妊産婦死亡をゼロにする。

02
ジェンダーに基づく暴力（GBV）や児童婚などの有害な慣習

政府や人道支援団体とともに、ジェンダーに基づく暴力の予防・対策と、児童婚や女性器切除（FGM）などの有害な慣習をゼロにする。

03
家族計画サービスへのニーズが満たされない状況

家族計画を必要とする人々が、必要な時に必要な情報や避妊薬・具にアクセスできるようにし、ニーズが満たされない状況（アンメット・ニーズ）をゼロにする。

国際開発人口会議（ICPD）行動計画と「3つのZERO（ゼロ）ミッション」達成のための6つの方法

1. 人権に基づくジェンダー変革のためのアプローチ
   Human rights-based and gender-transformative approaches
2. イノベーションとデジタル化
   Innovation and digitalization
3. パートナーシップ、南南・三角協力、資金調達の推進
   Partnerships, South-South and triangular cooperation, and financing
4. 人口動態データ
   Data and evidence
5. 誰一人取り残さず、最も必要としている人にこそ支援を届ける
   Leaving no one behind and reaching the furthest behind first
6. 強じん性と柔軟性、開発・人道・平和に対する取り組み
   Resilience and adaptation, and complementarity among development, humanitarian and peace-responsive efforts

（UNFPA Strategic Plan, 2022-2025）

2021 Annual Report　Top 20 DONORS Global Statistics

UNFPAの拠出金と支出金

UNFPAの収入について

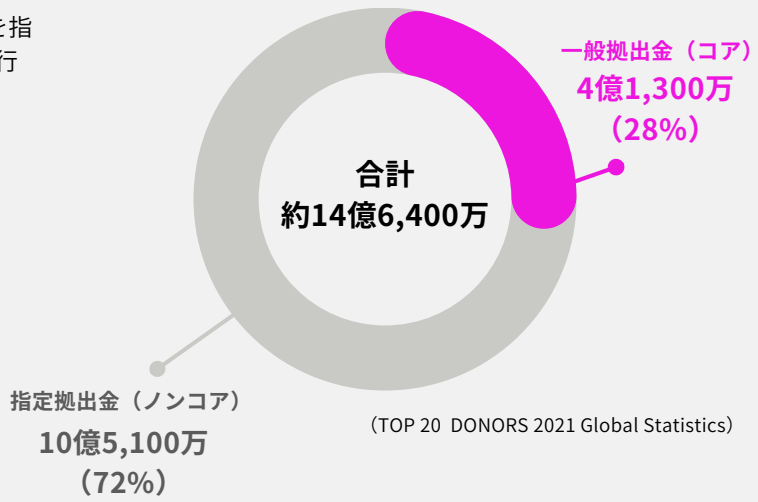
UNFPAは各国政府からの拠出金を、主な財源として運営しています。拠出金は一般拠出金（コア）と指定拠出金（ノンコア）で構成されており、2021年は合計**約14億6,400万USドル**がUNFPAに拠出されました。

一般拠出金（コア）と指定拠出金（ノンコア）について

一般拠出金（コア）とは、年次計画に沿って行われるUNFPAの通常の活動・プログラムや運営管理費の主な財源となるものです。
また、指定拠出金（ノンコア）とは、拠出国が活動目的や地域などを指定してUNFPAに拠出するもので、UNFPAはその目的に沿った活動を行います。

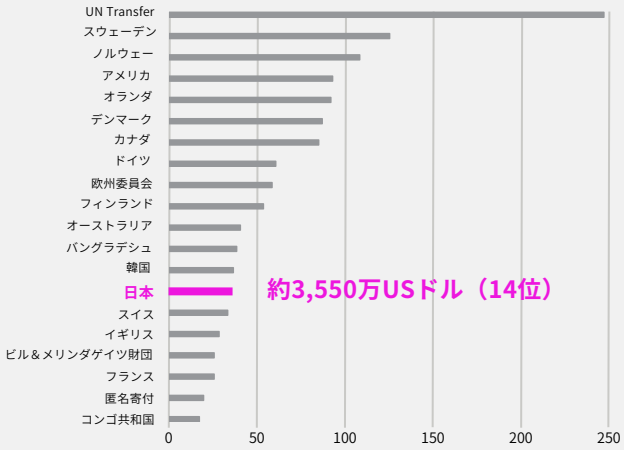
2021年 UNFPAへの拠出金内訳

（単位：USドル）



（TOP 20 DONORS 2021 Global Statistics）

2021年 UNFPAドナーによる拠出(コア / ノンコア)
TOP20 ランキング　（単位:100万USドル）



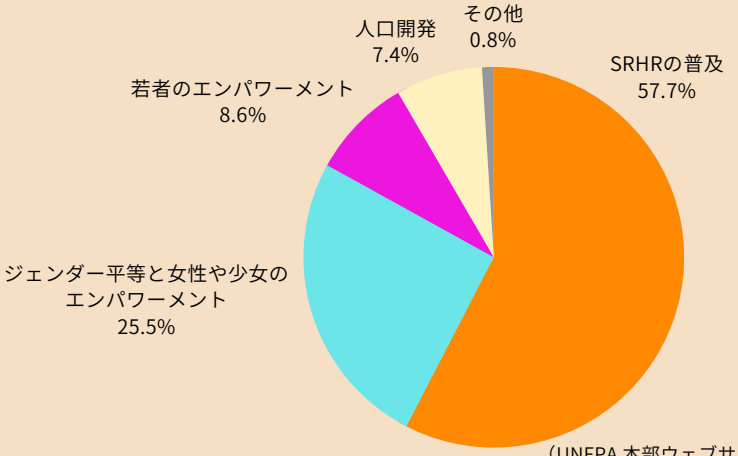
ランキングには、二国間だけではなく共同資金調達メカニズム（国連マルチドナートラストファンドなど）から受け取ったすべての資金も含む。

（Top 20 DONORS 2021 Global Statistics）

UNFPA活動分野別の支出割合

2021年支出総額の**半分以上が、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツ(SRHR)の普及**に充てられました。

2021年 UNFPA活動分野別の支出割合



（UNFPA 本部ウェブサイト）

日本政府による拠出金

2021年の**一般拠出金（コア）**は**約1,600万USドル**、**指定拠出金（ノンコア）**は**約1,950万USドル**、**拠出金額全体の合計は約3,550万USドル**でした。

（Top 20 DONORS 2021 Global Statistics）

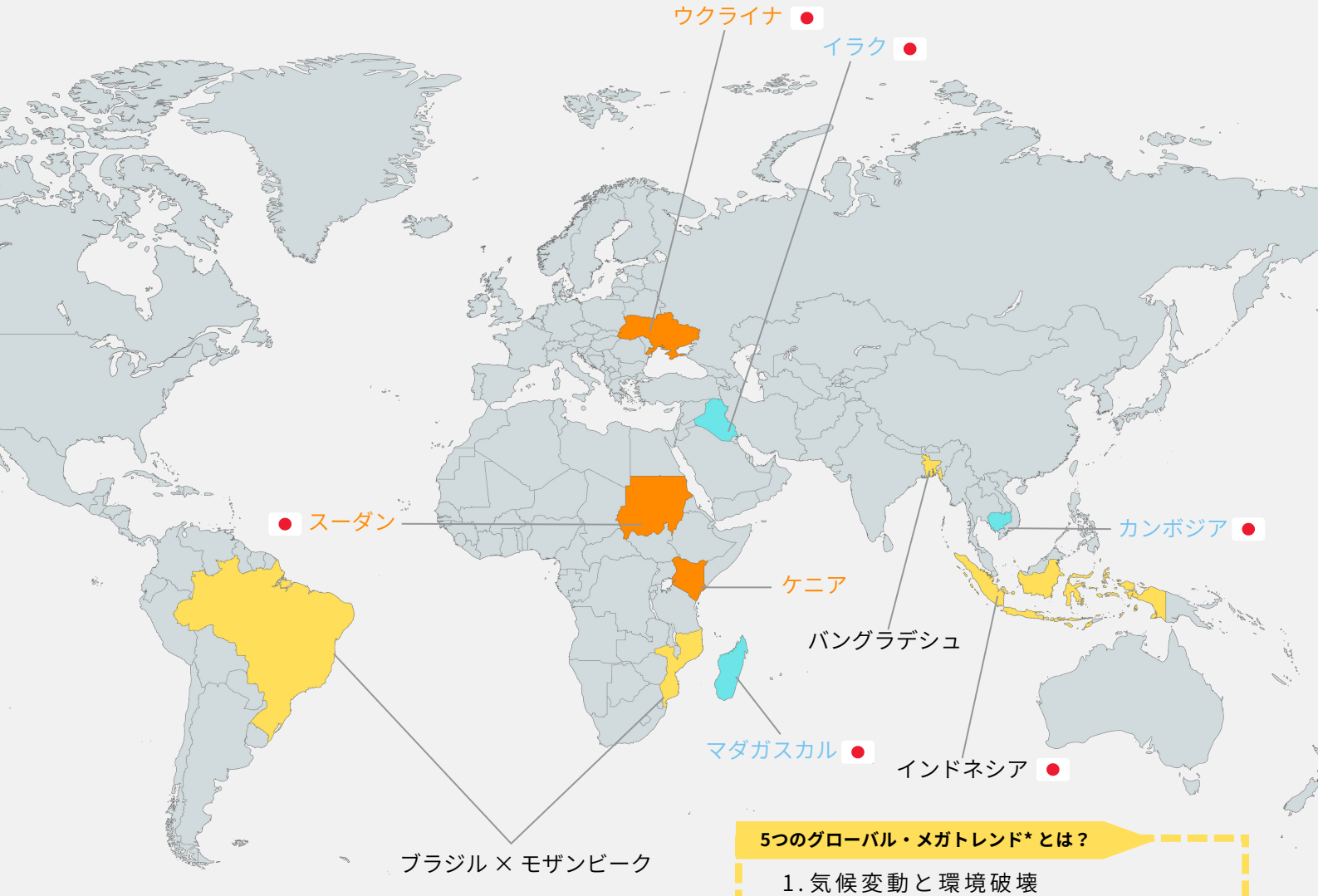
2021年 日本政府拠出金のランキング
（政府・民間含めたドナー20の国および機関）

すべての拠出金	一般拠出金	指定拠出金
14位	**9位**	**15位**

（Top 20 DONORS 2021 Global Statistics）

UNFPA活動紹介

●：日本政府補正予算プロジェクト



5つのグローバル・メガトレンド* とは？

1. 気候変動と環境破壊
2. 人口動態の変化、特に高齢化
3. 都市化
4. デジタル技術の台頭
5. 不平等

(国連の報告書 "Shaping the Trends of Our Time", 2020)

グローバル・プロジェクト

3つのZEROミッション × **グローバル・メガトレンド**

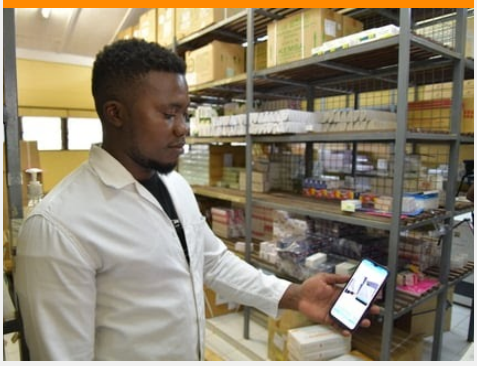
UNFPAは3つのZEROミッションにグローバル・メガトレンドを合わせて、世界中の様々な課題解決に取り組んでいます。

スーダン

妊産婦の死亡 × **気候変動**

洪水被害を受けた地域での妊産婦の安全な出産

ケニア



家族計画サービス × **デジタル技術**

避妊薬・具の調達のためのモバイルアプリ『E-POD』開発

ウクライナ

ジェンダーに基づく暴力 × **人口移動**

避難民をGBVから守る「オレンジ・セーフスペース」の運営

日本政府補正予算プロジェクト

UNFPAは日本政府の補正予算から拠出される支援を通して、世界各地で様々なプロジェクトを行っています。
2021年度は約926万USドルの支援額を受け、アジア太平洋、中東、東・南部アフリカ、西・中央アフリカの4地域13か国で、緊急性の高い新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対策を行うとともに、女性の健康と権利を守るプロジェクトなど、計13件の人道支援事業を実施しました。**#UNFPAthanksJAPAN**

マダガスカル

期間：2021年3月ー2022年2月
日本政府拠出額：US$ 591,754

マダガスカル南部で最も脆弱な立場にある女性のための、総合的な緊急リプロダクティブ・ヘルス・サービスとジェンダーに基づく暴力の予防及び対応サービスを提供しています。

イラク

期間：2022年4月ー2023年3月
日本政府拠出額：US$ 777,592

イラクのカーディシーヤ県における帰還民や、国内避難民及びホストコミュニティに対する、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスや若者に関連するサービスと命を救う包括的サービスを提供しています。

カンボジア

期間：2022年3月ー2022年3月
日本政府拠出額：US$ 1,175,000

最も脆弱な立場に置かれている女性や若者たちが、COVID-19流行下でもセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・サービス及び母子保健サービスを受けられるよう、強じんで対応力のある保健システムを構築しています。

「3つのZEROミッション"目標達成のためのアプローチ」

イノベーションとデジタル化

バングラデシュ：ブロックチェーン技術を用いた月経衛生サービスの促進
月経が古くからタブー視され、女性や少女が多くの社会的制約を受けているバングラデシュで、UNFPAはブロックチェーン技術を用いてモバイルアプリ『Building Blocks』を開発し、生理用品の調達や月経衛生に対する正しい知識を発信する取り組みを行っています。

パートナーシップ、南南・三角協力、資金調達の推進

ブラジル・モザンビーク：ジェンダー平等推進のための共同イニシアチブ
ブラジルとモザンビークは、国連機関およびイギリス政府との三角協定を結び、モザンビークにおけるジェンダー平等を推進する共同イニシアチブを実施しました。本プロジェクトを通じて、モザンビークは女性に対する暴力に対応し、女性の地位向上に向けた新たなイニシアチブを立ち上げることに成功しました。

誰一人取り残さず、最も必要としている人にこそ支援を届ける

インドネシア：「Leaving No One Behind （誰一人取り残さない）」プログラム
新型コロナウイルスの感染拡大への対応やインドネシアにおける持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、誰一人取り残すことのないよう、コロナ禍のインドネシアで苦しむ女性や脆弱な人々の保護に取り組んでいます。

UNFPA
駐日事務所

日本は、国連人口基金にとって主要な資金拠出国です。日本政府や日本のみなさんに、人口問題やセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツの重要性について、そして国連人口基金への理解を深めていただくために、2002年に駐日事務所は設立されました。UNFPAは、持続可能な開発目標（SDGs）のうち、特に**目標 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」**および **目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」**を達成するために活動しています。

活動目的

UNFPA駐日事務所長
成田詠子 / EIKO NARITA

1. 日本のみなさんと人口問題についての理解を共有し、協働の輪を広げる
2. セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツに配慮した政策を政府に求める
3. 講演や各種イベントを通じた広報・キャンペーンを行う
4. メディアや出版物による広報活動と情報発信を行う
5. NGOなど市民社会と連携し、アドボカシー活動を行う

具体的な活動内容

メディアや出版物による情報発信

- マスメディアと連携・協力した情報発信やキャンペーン
- SNSやウェブサイトによる情報発信や記事の掲載、また日本政府および日本企業が支援するUNFPAのプロジェクトの紹介
- 「世界人口白書」の日本語版作成やUNFPAの活動やイベントなどをまとめたニュースレターの発行

イベント・講演活動

- 世界の人口問題についての講演、シンポジウムやワークショップの開催や協力、参加
- 国際デー（国際女性デー・女性に対する暴力撤廃の国際デーなど）関連イベントの開催
- NGO/NPO、大学など他団体主催のイベントへの協力や参加

政府系機関・市民社会・民間企業との連携

- 政府系機関、主に外務省との連携による人口問題分野についてのアドボカシーと政策提言
- 「国際人口問題議員懇談会（JPFP）」との連携・協力
- 国際機関やNGO / NPO、大学・研究機関や民間企業との連携・協力

用語解説

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツ（性と生殖に関する健康 / 権利）

セクシュアリティと生殖のすべての局面で、身体的、精神的、社会的に健康な状態のこと。子どもを産むか産まないか、その数やタイミングなどを自由に決めたり、性感染症の予防などの情報、資源、サービス、支援を受けられる権利が含まれる。

ジェンダーに基づく暴力（Gender-Based Violence: GBV）

社会的性差に基づいて、相手の意志に反して害を与える行為を指す包括的用語。女性に対する身体的、性的、心理的暴力や社会的、経済的虐待等を含む。

女性器切除（Female Genital Mutilation: FGM）

思春期までの少女の外性器を切り取る（または一部に傷をつける）慣習で、アフリカ、中東、アジアなどで行われている。少女の人権侵害であるとともに、健康面及び精神面で長期的な影響を及ぼす有害な慣習とされている。

家族計画

カップルまたは個人が、自発的に、子どもをいつ、何人産むのか計画すること。また、そのために出産の間隔と時期を調節するよう、意識的に努力すること。

ICPD行動計画

1994年に国連が主催した国際人口開発会議（International Conference on Population and Development : ICPD）、通称カイロ会議。人口問題に関する179カ国の合意に基づいてICPD行動計画が採択され、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス / ライツの推進が貧困を減らし、人口増加を安定させる一つの手段だということが明確にされた。

人口ボーナス

多産多死から少産少死への人口転換に伴い、経済発展が後押しされること。年少人口と高齢者人口の割合が小さく、働き手である生産年齢人口の割合が大きくなると、子ども一人当たりの投資が増え、女性の社会進出が進み、貯蓄も増加することから、国の経済発展につながる。

ディグニティ（尊厳）・キット

UNFPAが配布するディグニティ（尊厳）・キットは、自然災害や危機に直面したときに、女性や少女が身を守り、**尊厳を保つために必要な基本的なアイテム**で構成されています。キットの内容は、地域によって異なり、配布する地域の人々やコミュニティと相談して決めています。

ディグニティ（尊厳）・キット

バングラデシュでキットを配布する様子

UNFPAへのご支援のお願い

みなさまからのご支援は、世界中の人々が年齢や性別にかかわらず尊重され、最大限に力を発揮できる社会の実現を目指したUNFPAの活動に充てさせていただきます。さらに、紛争や災害における緊急人道支援にも活用させていただきます。

（右のQRコードから、寄付・投資プラットフォーム「セキュリテ」サイト内UNFPAページにアクセスできます。）

UNFPAの活動への寄付はこちら

SNSや駐日事務所ウェブサイトでは最新の情報を発信しています。
ぜひ、フォローをお願いします。

国連人口基金 駐日事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70　国連大学ビル7階
TEL : 03-5467-4684　FAX : 03-5467-8556
http://www.unfpa.org（本部ウェブサイト）
http://tokyo.unfpa.org（駐日事務所ウェブサイト）

UNFPA TOKYO REPRESENTATION OFFICE

UNU Bldg. 7th Floor, 5-53-70 Jingumae Shibuya-ku,
Tokyo 150-0001 Japan　TEL : +81-3-5467-4684
http://www.unfpa.org (Headquarters)
http://tokyo.unfpa.org（Tokyo Representation Office）